

# カトリック 仙台教区報

2015年9月6日 No.225  
 発行  
 カトリック仙台司教区  
 〒980-0014  
 仙台市青葉区本町 1-2-12  
 Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378  
 発行責任 広報委員会  
 URL <http://sendai.catholic.jp/>

今年の夏は、暑かった。そんな中でも子どもたちは元気いっぱい。各地で、教会学校や中高生たちが、キャンプや合宿で、楽しい時を過ごした。少子高齢化の中、子どもたちは教会の宝。

仙塩8教会の教会学校では、今年も宮城県加美町にある新田交流センターで8月5日から2泊3日の日程でキャンプを行いました。小学生21名、神父様やシスター方、リーダー、サプリーダを含めて16名と食事スタッフとしてたくさんのお母さんリーダーに通いでお手伝いをいた

だき無事終えることができました。私たちは毎年、キャンプが神さまと子どもたちの出会いの場となるように、そして幼いながらも、み言葉を生きていることができるようにという思いで計画しています。主の祈りを手話で教えていただく中で、祈りの文言以上にイメージが膨らみ、丁寧に祈るうとする子どもたちの姿に小さな光を眺めて福音を味わい、テゼの歌を歌いながら、ゆるしの秘跡を順に受ける静か



手話で主の祈り

なひと時。イエスの一生を描いた映画を観ることで、断片的な知識がつながり、劇を作り上げることで、み言葉を身近に体験する福音劇。それらを通して最終日のミサは、子どもたち

子どもたちの様子。劇を作り上げることで、み言葉を身近に体験する福音劇。それらを通して最終日のミサは、子どもたち

や青年リーダーたちを見て、自分もそうなりたいたいと思ってくれる子が出て、次に繋がっていることを頼もしく思います。お世話になった森田神父様、ホセ神父様、シスター方、忙しい中集まってくれたさつたりリーダーに本当に感謝しています。キャンプを終えて今、来年はも

の主体的な参加の様子と神さまを賛美する喜びが感じられたように思います。

合同キャンプを実施して4年目となり、小教区を越えた友達との再会を喜んだり、新しく友達ができたりという様子が嬉しいです。また、サプリーダ

の主体的な参加の様子と神さまを賛美する喜びが感じられたように思います。

合同キャンプを実施して4年目となり、小教区を越えた友達との再会を喜んだり、新しく友達ができたりという様子が嬉しいです。また、サプリーダ

子どもも大人もそれぞれに恵みをいただくキャンプ、ぜひ一緒にしましょう。  
 (仙塩8教会 教会学校教師会 佐々木いづみ)

【関連記事6・7頁】

## 生命の泉

6月22日の衆議院本会議で安倍政権は安保関連法案の審議のために95日間の会期延長を決めた。そこで「憲法審議をしたい」との抱負を語った。7月30日の衆議院特別委員会では首相は、集団的自衛権の行使を容認しても、「他国の戦争に巻き込まれることは絶対には」と断言した。8月初旬から米国はトルコ領内からシリア領内の「イスラム国」に無人機攻撃をしていたが12日には有人機攻撃に切り替えた。これほどアメリカと緊密な関係を持つ日本が、「巻き込まれることは絶対には」と断言する。誰か信じるか。「人類の歴史は戦争の後片付けをしているが、戦争をしているか、戦争を準備しているかに分けることが出来る」とある歴史家は言う。中国の梁啟超(りやうけいせう)によれば中国で秦始皇帝による紀元前221年の全国統一から1920年までの2141年間に160回の内乱があり合計896年を費やした。即ち24年ごとに一回内乱を重ねてきた宮崎正弘「自戒する中国」。平和とは戦争と戦争の間のこと。その平和の時代に前の戦争の悲惨さを忘れる「島田雅彦 日本に70年間戦争がなかったといのはほとんどない長い年月なのかも知れない。そして戦争の悲惨さを覚えている世代はいなくなりつつある。89年東西冷戦時代が終わると世界中各地に民族的・宗教的アイデンティティーを求めて紛争が多発し、ソ連は15共和国にユゴスラビアは7分裂し、大戦後の世界秩序は見失った。各国は競って豊かさを求めて狂奔しているうちに紛争はますます過激且つ残酷になり、その間に一握りの人たちがマネーゲームによって富を独占する。やらなくてもいい戦争(チャーター)から私たちは何を学んだのだろうか。終わってみれば一億総サンゲなどと呼ばれて誰も責任を取ることもしない。総論を分析することもない。何も考えないただ付和雷同する国民にするのは国と政治家のマイノリティだ。剣を取るものは皆、剣で滅びる」(マイ26・52)こそ学ぶべき真理だ。(守)

# ステファノ・マリア舟山亨神父 突然の帰天 教区に激震・驚きと嘆きの声...

舟山亨神父は、8月1日(土)午後4時ごろ(推定)、教会の樹木の伐採作業中の事故で帰天。翌日、会津若松教会の信徒が主日のミサのため教会に行ったときに、倒れているところを発見したという。舟山師は、2006年5月3日、平賀徹夫司教によって叙階され、浪打教会、本町教会の助任司祭を皮切りに、会津若松教会、仙台中央地区、釜石教会、遠野教会を経て、2013年から会津若松教会の担当司祭となり、2014年からは、地区制に伴い第7地区の地区長を務めた。



8月2日 主日のミサが行われたが、ミサが(且)、一本杉 終わり、お知らせをしていた時、教会では、小野寺洋一神父から、舟山師の訃報が告げられた。これを聞いた信

徒たちは、「エー、なんで!」、「まだ若いのに!」、「まさか木から落ちたなんて!」など、にわかには信じられない思いの中、驚愕と嘆きの声。ざわめきの中で、深い悲しみに包まれた。通夜は、8月4日午後6時30分から、元寺小路教会で、司教総代理小野寺洋一神父の司式で行われた。葬儀、告別式は、翌5日午後1時から、同教会で平賀徹夫司教の司式で、多くの司祭の共同司式で行われ、ご遺族と40人余りの信徒が参列して行われた。

## 世界代表司教会議(シノドス)

司教 平賀 徹夫

今年10月、世界代表司教会議(シノドス)が開かれます。今回は第14回の通常総会で、場所はバチカン、会期は4日から25日までです。日本の司教協議会代表として長崎の高見三明大司教様が参加されます。

「世界代表司教会議」という名称は、第二バチカン公会議公文書の一つ、『教会における司教の司牧任務に関する教令』の第5項に出てきます。「全世界のさまざまな地域から選ばれた司教は、…世界代表司教会議という固有の名称をもって呼ばれる評議会において、教会の最高牧者をいっそう効果的に助ける。…」と。

シノドスを招集・開催する教皇はこの会議の実りを参考に、「使徒的勧告」という公文書を発表しますが、いままでで最も大きな影響を及ぼした使徒的勧告はパウロ六世教皇の『福音宣教』(1975年)ではないでしょうか。今でも、誰もが読み味わうべきものだと思います。この『福音宣教』からの引用がその後に発表された公文書のほとんどすべてにあります。たとえば、ヨハネ・パウロ二世教皇には『和解とゆるし』(1984年)、『信徒の召命と使命』(1988年)、『現代の司祭養成』(1992年)等の使徒的勧告がありますし、フランシスコ教皇の『信仰の喜び』など、教会の使命や宣教に係る公文書のすべてに見られます。

今度の第14回シノドスは「教会と現代世界における家庭の召命と使命」がテーマです。内容には「家庭の置かれている状況と突きつけられている課題」、「キリストへのまなざし:家庭の福音—結婚への準備、家庭のもつ価値、傷つき壊れやすい家庭に対する慈愛」、「現実に向き合う司牧的展望:いのちの伝達の問題、離婚に係わる問題、性的マイノリティの人々への配慮等」があります。事前準備のアンケートに司教団は日本からの回答を送りましたが、シノドスでは全世界からの意見も合わせて討議されます。実り豊かなシノドスとなるように祈りましょう。そしてフランシスコ教皇様がどのような使徒的勧告を発表されるか楽しみに待ちたいと思います。

平賀司教は、説教で、「この現実には、驚きと悲しみを禁じえません。死は、突然に、私たちを引き裂きます。私たちは、舟山神父との別れに涙を流します。しかし、主は、この涙をぬぐい、死を滅ぼしてくださいます。」

神は、舟山神父を選び、司祭として呼んでくださいました。そして、今、神のみもとにあげられたのです。悲しみを乗り越えていきましょう」と、参列者を励ました。

また、告別式後の喪主挨拶では、事故の経緯を説明した後、「突然に旅立ってしまったことに悔しき、残念さを禁じえません。私が、司教になって初めて叙階した司祭でした。それ以後、まだ叙階者がいません」と沈痛な胸の内を話された。

### ステファノ・マリア

### 舟山 亨 神父 略歴

- 1964年 生まれ
- 1994年8月15日 洗礼
- 2006年5月3日 司祭叙階
- 2006年 浪打教会・本町教会 助任司祭
- 2007年 会津地区協力司祭

### 司教日程

9月・10月

- 9・2 ② 子どもと女性権利擁護デスク
- 3 ③ 仙台正平協の集い
- 8 ④ 司祭評議員会・司祭団役員会
- 9 ⑤ 第7地区司祭集会(松木町)
- 12 ⑥ 希望の風フェスティバル (宮代仮設)
- 14 ⑦ 第14回福島ブロック会議
- 17 ⑧ 学法理事會
- 19 ⑨ トラピスト修道院大院長祝福式
- 21 ⑩ 正平協全国集会(東京)
- 23 ⑪ 宣教司牧評定例会
- 24 ⑫ 全ベース会議
- 25 ⑬ 仙台教区サポート会議
- 27 ⑭ インターナショナル・ミサ
- 28 ⑮ 10・1 教区司祭団黙想会
- 10・2 ⑯ 特別臨時司教総会
- 5 ⑰ 部落差別人権委事務局会議
- 12 ⑱ 第3地区集会(四ツ家)
- 13 ⑲ 司祭評議員会・司祭団役員会
- 18 ⑳ 第5地区堅信式(東仙台)
- 20 ㉑ 21 日本カトリック神学院 福岡キャンパス
- 22 ㉒ 学法理事會
- 24 ㉓ 部落差別人権委・シンポジウム
- 26 ㉔ 教区司祭団月例会
- 31 ㉕ 狭山事件市民集会

- 2008年 仙台中央地区担当司祭
- 2011年 釜石教会協力司祭
- 2012年 釜石教会・遠野教会 主任司祭
- 2013年 会津地区担当司祭
- 2014年 第7地区担当司祭
- 2015年8月1日 帰天 (51歳)



舟山神父叙階式

# ステファノ・マリア舟山 亨神父を偲んで

## 舟山神父様！

これからも私たちのことを  
神様に託りなしてください！

会津若松教会 佐藤 大

あまりにも早すぎるご帰天に「どうしてですか？」と問いたくもなる出来事でした。

教会の環境整備の最中の出来事でしたので、殉職とも言えるでしょう。教会委員会では業者への依頼を再三主張したところですが、神父様はいつも「いや、わたしがやりますよ。大丈夫です」と言っていて、いつも教会に誰もいなくなつてから、ひとりで伐採の仕事をなさっていました。ある意味、順調に進んでいましたので、周囲もあまり強くは言わなくなっていました。それでも、あの事故の日にも、午前中



葬儀ミサ

に会った信徒の一人が、神父様の話を聞いて「けがをしないように気を付けてくださいよ！」と、声をかけていたといいます。

神父様は典礼の規則に忠実な方でした。ミサの中の様々な祈り方について、わかりやすく丁寧の説明して下さって、信徒に習慣化していただきました。

ミサの説教も具体的な例示によってわかりやすくなるように工夫されていました。ご病気の方々の訪問も熱心になさっておられた。いつも信徒一人ひとりの心にご自分の心を向けて

## 第6回 日本カトリック医師会 看護協会 仙台支部交流会

7月4日、5日と大船渡教会の皆さんにご協力いただき、JCM・JCNNA仙台支部交流会が開催された。4日夜はエドガル神父、鷹觜神父を交えて、仙台・宮古・大船渡から計17名が懇親会に集まり、心温まるひと時を過ごした。この際、山浦玄嗣先生作の小聖堂の十字架像も披露された。翌5日は大船渡教会でのごミサの後、海の星幼稚園を会場として、「聖書に見る老・病・死」と題して、山浦玄嗣先生に講演していただいた。仏教では老・病・死に「生」を加え

おられました。

一方、会議などでは、ご自分の考え方をきちんと主張なさっていました。周囲に理解してもらうために、言葉を選んだり、話し方を工夫されたり、具体的な例をひかれたりと、熱心に努力される場面も少なくありませんでした。

会津若松教会に行けば今でも舟山神父様があのニコニコ顔で現れてきそうで、実際にはもう会えないということにわかには信じることができません。でも、神父様は神様のもとに行ってしまった。神父様のお車もすでにご実家の方に運ばれま

した。今、週日の会津若松教会は、時折信徒が用事で入る以外は、カギが閉まって寂しい風景となり、主日には、福島、郡山、白河からそれぞれの神父様が会津の三教会にお越しくださって、ミサをささげてくださいることになりました。このようにして、舟山神父様のお働きの場所だった教会から、思い出すお姿も日に遠くなってゆきます。

でも、神父様の言葉や笑顔は、関わりを持たせていただいた多くの信徒の心に残り続けてゆきます。そうです、舟山神父様は人々の心に永遠に生き続けるのです。舟山

て四苦とし、自分の思い通りにならないものと捉えた。一方キリスト教の場合、「老」「病」「死」は旧約新約聖書中合わせて2千161カ所に出てくるが、そのほとんどは歴史的記述としてのみ記されている。ヨブ記だけが別で、ヨブの友人・知人たちが「老・病・死」は以前の罪の結果だ、天罰だ、というのに対し、ヨブは「神は与え、神は奪う。神の名は誉むべきかな」と答

え、これらのことは天罰とは関係がなく、人間がすべきことはただ神様にすがり続けることだ、と答えた。

新約ではイエスは目の見えない人を見て、災難や病気は天罰とは全く関係なく、神の栄光が現れる

ためだ、と弟子に答えた。病人と周りの人たちとの関係を見た者たちが、なんと素晴らしい関係か、このような人間たちをお創りになった神様は何とすばらしいことかと神様を大いに讃えるためだ。

「老・病・死」とは人が絶対に避けることはできないが、神様を喜ばせるような、人と人との交わりを実現させるものなのだ、と結んだ。約50名ほどが参加し、熱心に拝聴した。快く準備をお手伝いくださった信徒代表の熊谷雅也さん、山浦玄嗣先生はじめ、大船渡教会の信徒の皆様深く感謝いたします。

(JCMNA仙台支部 溝口由美子)



司祭全員でサルヴェ・レジナを歌う

神父様、ほんとうにありがとうございました。これからも神さまの腕にあつて、私たちのことをどうぞ神様にとりなしてください。

# 地区だより

## Ⅱ第7地区Ⅱ

### 第7地区の現状と課題

#### 1. 第7地区で行なわれたこと

- (1)地区制発足以降の動き
- ・松木町と会津地区3教会との間において神父様方がお互いの小教区から出向いてのミサ(計4回)
- ・松木町、野田町の信徒の会津若松教会への訪問とミサへの参加
- ・会津地区の信徒の松木町教会訪問とミサへの参加。
- ・第7地区の小教区から信徒複数名ずつの参加による会議(2回)
- ・第7地区の代表者の会議(1回)

(2)地区内各小教区の最近の動き

- ・待降節、四旬節は、会津地区3教会合同、松木町教会で、黙想会を実施したが、このうち待降節の会津地区3教会合同の黙想会の指導を野田町教会のトマス神父にお願いし実施した。このことは、地区制度の大きな恵みの一つだった。
- ・今年度、松木町教会では野田町教会から異動されたトマス神父の歓迎会が行われた。

#### (3)地区内の動きと展望

・第7地区には、桜の聖母学院、ザベリ才学園、カトリック幼稚園等の教育機関があり、学校数(幼稚園を含めて)14校(園)になり、教育機関と教会との関わりを維持発展させる意義は極めて大きい。現状では、各小教区が各学校(園)の具体的な動きを把握する方法を得ていないが、定期的に様々情報を得る方法



野田町教会

松木町教会

・昨年(2017年)の夏から秋にかけての地区内の動きに比べると、冬以降、年度末から年度初めにかけては、司祭の異動(福島地区)や典礼の課題(会津地区)など、小教区のことに関心が高く、また、冬には豪雪で福島地区と会津地区をへだてる土湯峠の影響もあり、交流は鈍かった。雪が溶けると、心の雪も溶けて、再び交流が活発になると思う。そのきっかけ作りのために、4月12日(日)には、松木町、野田町、会津若松の信徒代表(地区委員)が野田町教会に集まり、課題を話し合った。

(2)昨年(2017年)の状態を振り返ると、モータリゼーション時代を反映して、季節が良ければ距離を気にしない交流が行われる可能性は極めて高いが、内容に目的や達成感、あるいは楽しいという実感がなく、長続きしない。その意味では計画を推進する小教区の担当者同士がお互いに力を出し合いながら、その「仕掛けづくり」に継続的な意欲を維持し、一層具体的な計画を推進することが求められる。

(第7地区評議員 佐藤 大)



会津若松教会



喜多方教会

#### 2. 地区の課題

(1)第7地区は、松木町、野田町、桑折(巡回)、会津若松、喜多方、南会津の6教会を3人の神父(トマス神父、エメ神父、舟山神父)で牧していただいていたが、舟山神父のご帰天により、今後、いくつかの変更が出てくるであろう。特に会津地区の3教会のこれからの対応が大きな検討課題となる。福島地区のご理解とご指導をいただきながら具体化したい。



南会津教会

を具体化することが必要と考えている。

・第7地区の修道院は、全部で4ヶ所あるが、修道院が関わることは、各修道院の現状を考えた時、方法を画一化せず、その事情によって関わり方を工夫することが肝要と考えている。

## Ⅱ第8地区Ⅱ

### 第8地区は4月に総会を開き地区規約を作成し、地区連絡協議会が発足した。活動内容は2年に1回の集い、研修会、ミニコンサートなど、場所は持ち回りで行う予定。会長あてに各小教区の近況をメールで報告し連絡を取り合うようにしている。

8地区主催、「平和を祈ろう」の作曲者である末吉良次氏を迎えミニコンサートⅡ写真Ⅱが白河教会で開催された。



次回は9月20日(日)開催される。

#### 《各教会の近況》

##### 郡山教会

7月12日、被災地訪問「川内村・富岡町」参加者23名、ガイドは川内村仮設住宅自治会長の志田篤さん。現在は村内に入っても人影はなかなか見えない。帰村宣言以来、完全帰村者は592人。医療環境を含む生活環境(商店や福祉)に不安があるし家に帰っても仕事はなく、農作物は以前のように栽培できない。若年層は帰還しない道を選んでいくという。

##### 二本松教会

7月13日、神奈川県「カトリック藤ヶ丘教会」から小笠原優神父初め32名の方が、慰問と巡礼旅行のために来松、板垣勤神父から「二本松の殉教者、原発事故による被害」について講話をいただいた。7月19日、みんなで「カローラ」教皇になった男のDVDを鑑賞し、改めてヨハネ・パウロ2世の素晴らしさに感動。

【東日本大震災の支援関連】震災直後より3年間続けてきた内郷促進住宅での活動から、継続性を考え年次の2月より入居が完了した豊間、薄磯、この2つの復興住宅にサロン、イベント等を行行し、新たな活動を開始した。



この両団地でのサロン参加者は以前の倍(約70名程)となり、様々な工夫が必要となる。当初から被災者の方々協力し合える関係づくりのお手伝いをすることを目標としながら、安らぎのひと時の一助になれるように願っている。

##### 須賀川教会

8月22日司教様による聖堂建設の着工式が行なわれた。完成はクリスマス頃の予定。

##### 白河教会

信徒館建設に向け図面の作成中。今年中の着工を願っている。

(第8地区評議員 川井田 元)

# 仙台教区「新しい創造」第3期の取り組み

## 仮設最後の夏祭り

カリタス若林SC

カリタス若林SC(一本杉・豊屋丁・西仙台合同)が、東日本大震災で被災した方々の住む荒井東通仮設の支援活動を初めてほぼ4年になる。

仮設での「コーヒータム」、他に春の「花見会」、夏の「七夕飾り」、「夏祭り」、秋の「芋煮会」、冬の「クリスマス会」などの活動で、「カリタスさん」の名で親しまれている。



七夕の飾り付け



ダルクの焼きそばづくり



スイカ割り

同仮設の自治会と合同で実施している「夏祭り」も今年で3回目となる。  
8月9日(日)午後2時から、始まった祭りには、約200名が参加した。  
仮設の住民の他に、この仮設を

出て復興住宅に移った人たちも応援に駆け付けた。  
一本杉教会の支援グループは、9時からのミサが終わると、仮設に直行してテントの設営や七夕の吹き流しを飾るなど、祭りの準備を整えた。

「焼きそば」を作っていただけで減ってきましたが、まだ残っている方々もありますので、今後もご支援をよろしくお願いします」とあいさつした。  
祭りには、仙台ダルクの方々に「焼きそば」を作っていただい

提供したり、青葉区の氷屋さんのご厚意で、かき氷も提供し、参加者に喜んでいただいた。  
仮設の方々が、日ごろから練習している「大正琴」の演奏や、盆踊り、小さな子どもたちのスイカ割りなどで、夏祭りを盛り上げた。  
自治会長さんの話では、仮設が出来た当時は、197世帯が入居していたが、今では、57世帯となり。毎日のように引越し業者が来ている状態で、日に日に住民が減っているとのこと。  
来年の5月でこの仮設は閉鎖されることが決まっています、今年中にはほとんどの世帯が仮設を出ていくのではないかと思われる。  
私たちの活動も、今後どのようにしていったらよいか問われている。  
(一本杉教会 岩井 誠)

## ハンセン病問題と仙台教区

### 人権を考える委員会

#### ①「療養所に教会があること」

全国で13ある国立ハンセン病療養所の中には、カトリック教会をはじめ、プロテスタントの教会、仏教寺院、神社など、多くの宗教施設があります。国の施設、療養施設なのに宗教施設があることに、初めて見た方は驚かれます。なぜでしょうか。ハンセン病に罹り療養所に入所すると、信仰する宗教を聞かれたそうです。職員にとっては、お葬式を何宗で出すかを確認するためでした。病気が治っても一生療養所から出さない法律、隔離政策の問題が、ここからも

見えてきます。

宗教は、療養所で一生を送る入所者の心の慰めとして使われ、結果的に生涯隔離に加担したのではないかと批判もあります。それだけででしょうか。

1956年カトリックのマルタ騎士修道会によって開催されたローマ会議で「ハンセン病が感染性の低い疾患であり、かつ治療しうるものである」として、各国に差別的な法律の撤廃を要請すること、病気に関する偏見や迷信を取り除くため広報宣伝活動を行うこと、早期発見及び治療のためのさまざまな手段を講ずること(患者は、隔離するのではなく、自宅で生活できる

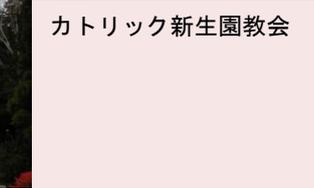
こと)、治療が完了したときには退院させるべきことなどが決議されたことが、世界で隔離廃止の動きが始まるきっかけのひとつと言われています。

療養所入所者に断種・堕胎が強制された時代に、奄美和光園ではカトリックを中心とした妊娠・出産・保育・養育の制度を確立することで、子供を持つことが可能になった例もあります。

仙台教区では療養所の中に松丘教会、新生園教会があり、毎月ミサが捧げられています。療養所入所者、そして多くの司祭、修道者、信徒が、共に歩んできました。どのような思いで教会を建て、信仰生活を送ってきたのか。仙台教区



カトリック松丘教会



カトリック新生園教会

として、その歩みをどう位置づけ、何を学び、何を伝えていくのかが問われています。(御供 真人)



# 教会サマーキャンプ

## 感謝のうちに 仙南4教会

7月23〜24日にかけて、白石教会で仙南4教会サマーキャンプが行われました。参加者は、子ども8名、大人3名と、神学生のオズワルドさん、シスター内田、ホセ神父でした。

水遊び・バーベキュー・花火・カレー作りなど、盛りだくさんのキャンプとなりました。また、神父様のご指導のもと小麦粉のみでパンを焼き、祝福していただきました。



## 楽しかった教会サマーキャンプ

玉木天音(あまね) (小4・大河原)

けていきたいと思っと思っています。たくさん心よせて下さっているホセ神父様、お忙しい中駆けつけて下さったシスター内田には心より感謝申し上げます。(リーダー 玉木こずえ 大河原)



# 自然の中でのびのびと!

## 福島自主避難家族サマーキャンプ

福島県の中通りから山形県米沢市への自主避難者グループ「ハート・ウェッジ福島」の家族を対象に、8月17〜18日、仙台の「ドミニコの家」でサマーキャンプを行いました。参加者は子ども4名を含む11名。



繩梯子に挑戦

子どもが家族で思いきり遊べるイベントをとのりくエ



かほちゃのバーベキュー

子どもが家族で思いきり遊べるイベントをとのりくエ

(CTVC 漆原比呂志)



神様を近くに感じ純粋に成長している子どもたちは、信者の少ないせまい地域・学校などでぶつかる壁が多いのがこの地方の現状です。中学・高校と成長するにつれ、部活動などで「ミサにあずかれなくなっていくますが、この4教会の子どもたちが教会からすっかり離れてしまうことなく、今参加している子どもたちが頼もしいリーダーとなってキャンプが行われる日を楽しみに、応援を続

白石教会に着くとすぐ水着に着がえて車で行きました。さやかちゃんとレイちゃん、水をかけあったりして、最初はとも冷たかった水もだんだんぬるく感じました。弟が持って行った水でっぽうも使ってみんなで楽しく遊びました。スイカわりでは、小さい人から順番にわっていったのですが、最初のほうでわってしまったので、順番がまわってこなくてさんねんだったけれど、みんなでおいしく食べられたので良かったです。たくさん遊んで、お話を聞いたりおいのりをしました。またみんなでそういう時間をすごせるのを、楽しみにしています。

1日目は大雨に降られたため、急ぎよ予定を変更して「仙台うみの杜水族館」へ。夕方からは「ドミニコの家」でシスターが準備してくださったバーベキューや採れたの野菜に参加者の皆さん大喜びでした。2日目は朝から快晴で、地元グループ「里山ネット」のボランティアの方々のご

### 放射能で覆われる地球

1950年から1960年代の原水爆実験は、2千回以上も行われた。大気圏内だけでも502回とのこと、多くの放射性物質が大気圏に放出された。これらの放射性物質は大気中を浮遊し、やがて放射性降下物として、全世界の地表と海面に落下した。地表の物質は、例えば黄砂のように風で再び舞い上がり、遠方まで放射性物質を運ぶ。

チェルノブイリと福島原発事故で、大気中の放射性物質はさらに増えた。福島原発事故では、放射性物質を含んだ大量の汚染水が発生した。その大部分は海中へと流れこんでいる。人類初めての重大事故で対応もできず、海水の放射能汚染は拡大の一途をたどっている。

人類が人工放射性物質を作り出したのは、1942年の核分裂連鎖反応の実験に始まる。それから70年あまり、核の無秩序な利用で全地球が人工放射性物質に覆われる事態となった。放射性物質をこれ以上増やさないこと、特に放射性物質による海洋汚染を止めることが現代の緊急課題である。地球を大事にする会 猪岡 光

# 中学生サマーキャンプ

## 仙塩8教会中高校生会

8月16日、17日の1泊2日、東仙台教会を会場に、仙塩8教会中高校生会サマーキャンプが行われました。今年は男子4名、女子5名の計9名が参加。ここ数年では一番多い参加者です。



流しそうめん

毎年恒例の流しそうめん、幕を開けたキャンプ一日目のメインイベントは「修道院巡り」。東仙台教会の周りには4つの女子修道会がありますが、その恵まれた環境を生かしてのウォークラリーです。班ごと



とにその4つを巡って、「修道会の正式名称を聞く」「庭の御像の写真を撮り、その由来を聞く」という指令をクリアしていくというイベントです。どの修道会でも、手厚く中高生たちをもてなして下さったとのこと、心から感謝いたします。

夕方森田神父様のご指導による「聖書深読」の時間。聖書の一節を皆で読み、各自に書き写した後に、心に残った箇所を付印し、皆で分かち合います。

した。同じ箇所でも、人によって違った感じ方、捉え方があり、それがよい刺激となりました。

その後、これまで恒例のBBQと花火をして、一日のプログラムは終了(その後、中高生たちは自由時間を満喫していたようすが)。



聖書深読

二日目の昼食は国際交流の時間。東仙台教会のすぐ側に住んでいる、カトリックのポランティア団体「心の港」から、ポール神父様とベルニーさん(お二人ともフランス出身)をお招きして、一緒に食事を作り、同じ食卓を囲みました。

ポール神父様はニューヨーク在住で年に2回しか日本に来ないのに、それが我々のキャンプと重なるなんて、神様の御計らいに心から感謝です。

そして、2日目の午後は「教会による復興支援活動と私たちができること」という時間。



昼食作りで国際交流

がいたのは、なにより嬉しい収穫です。今年のキャンプは9人の中高生が集い、新たな出会いや嬉しい再会がたくさんありました。このお恵みを生かすため、定期的な活動を続けていきたいと思えます。

(赤井 悠蔵 東仙台教会)

今年のキャンプには、仙台教区サポートセンターの現スタッフと元スタッフがリーダーとして参加していたので、絶対に実現させたいプログラムでした。サポートセンター作成のDVD観賞、サポセン新旧スタッフのリーダーによる解説、そして班別の分かち合い。復興支援ポランティアに興味を持ってくれる中高生

### 被災地復興支援活動視察(案内)

テーマ:「被災地のいま!」

―ベースの活動から見る被災地の復興―

主催: 仙台教区サポートセンター

参加対象: 被災地の今に興味のある方、カトリック教会の内外を問わず

- 開催日時: ①2015年9月17日(木)~19日(土) Aコース  
 ② 10月19日(月)~21日(水) B  
 ③ 11月9日(月)~11日(水) A  
 ④ 12月9日(水)~11日(金) B  
 ⑤2016年1月18日(月)~20日(水) A  
 ⑥ 2月22日(月)~24日(水) B

7回目以降については開催日時検討中

参加費: 15,000円(集合の際に徴収いたします)

\*集合地までと解散以降の交通費は含みません。

視察場所: Aコース 宮城県・岩手県の被災地

(活動ベースのある街を中心に)

宿泊は米川・釜石・大槌 各ベースの何れか

集合: 元寺小路教会 解散: 盛岡駅

Bコース 福島県・宮城県・一部岩手県の被災地

宿泊は原町ベース・米川ベース

集合: いわき教会 解散: 仙台駅

申し込み: 各教会に申込用紙を送付しました。必要事項を記入しサポートセンターにFAXで申し込んでください。

FAX: 022-797-6648

申込締め切り: 希望の日程を申込書に明記し、

開催日時10日前までに申し込んでください。

いずれも定員8名です。

同行司祭: 小松 史朗(仙台教区サポートセンター)

催行最少人数: 参加者が5名に満たない時は、順延します。

その時は、締切日に連絡します。

持ち物: 洗面用具、シーツ2枚

《主な視察地》

- Aコース 1日目 9:30 元寺小路教会集合→亘理方面→石巻→米川ベース(泊) 2日目 6:30 米川教会ミサ→志津川→気仙沼→陸前高田→大船渡ベース→釜石ベース(泊) 3日目 6:30 釜石教会ミサ→大槌ベース→宮古教会→17:30 盛岡駅(解散)
- Bコース 1日目 9:30 いわき教会集合→いわき市内→檜葉町→大熊町→富岡駅周辺→浪江町→南相馬市原町→原町ベース(泊) 2日目 6:30 原町教会ミサ→亘理方面→石巻→石巻ベース→米川ベース(泊) 3日目 6:30 米川教会ミサ→南三陸町→気仙沼→陸前高田→大槌ベース→大船渡ベース→仙台駅(解散)

問合せ: 仙台教区サポートセンター 022-797-6643

# シスターズリレー 第3弾 沖縄「高江」に連帯して行う 祈りと断食と座り込み

東村 高江は、沖縄県の北部、ヤンバルとよばれる亜熱帯森林のなかにある約100人の住民が暮らす小さな集落。この集落を囲むように米軍のヘリパッド（ヘリコプター着陸帯）を6つ作る工事が始まっている。今でも高江では昼夜を問わず、米軍ヘリが飛んでいる。ヘリパッドが増設され、これ以上ヘリが飛んだら、しかもオスブレイが飛んだら、高江に人が住めなくなる！と考えた高江の住民が、『自分の家で普通に暮らすため』に2007年7月から工事現場の入り口で、非暴力の抗議 説得活動として座り込みをしている。

2014年5月の日本修道会総長管区長会において、今年度の活動を「いのちを優先する社会をめざして」―苦しむ人々の声を聴き、連帯する―を決議し、具体的な行動をして、シスターズリレー 第3弾「沖縄の痛みに連帯して、土曜日は特に高江の人々のために祈りと断食をする」を採択しました。

実施は日本女子修道会総長管区長会に属する70余りの修道会を4つのグループに分け、各週ごとにリレーで繋ぐかたちで、激励メッセージと祈りを布やハンカチ、文書などにして、それぞれの修道会から現地の私たちの修道会に送られてきまし



た。この祈りとメッセージをフイルして、私たちの会も4つのグループに分け、一週毎当番の支部修道院が高江に携えて行き、座り込みを支援している方々に届け、全国のシスター方の連帯する心を読み取っていただきました。各修道会の支部共同の特徴をよく表わしたメッセージなど反響は大きく、「このような支援の仕方があるのか」「シスターは祈りだけしていると思つた」などの感想が述べられるなど、全国のシスター方の祈りと断食の実施に大変感動しておられました。同時に、全国の支部修道院からの趣向を凝らした豊かなメッセージは現場で座り込みをしている私たちにとって大きな励みになり慰められました。また、祈りとメッセージだけでなく、全国の本部修道院および支部修道院からたくさんのカンパも届きました。私たちは7月までに6百万円余りを「ヘリパッドいらぬ住民の会」に支援金として届けました。この座り込みの実施は、全国のシスター方の祈りと断食によって支えられ、高江におけるシスターたちの姿は、修道



会の枠を超えた福音宣教の場となったことと確信しています。日本修道会総長会は2015年も引き続き、シスター方の「祈りと断食」は継続し、支援することになりました。現地の私たちの修道会は、高江と辺野古が非常に緊迫した状況にあるので解決がつかずまで高江の方々に寄り添うことを決め、毎週土曜日座り込みを続けています。（聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会 会長 當間 弘子）

## 告知板

◆ 祈りザンマイ・イエス三昧  
日時：2015年10月2日(金)夕食～4日(日)昼食まで  
場所：オタワ愛徳修道女会東山台本部修道院  
共に歩む人：オタワ愛徳修道女会会員  
対象：女性（自分の道を探している方・イエスと語り合いたい方）  
参加費：3,000円  
持ち物：聖書（お貸しします）、筆記用具、洗面用具  
申し込み：オタワ愛徳修道女会あざみ野修道院 シスター木田 まゆみ  
TEL045-901-2110 e-mail: [azaminosco@almond.ocn.ne.jp](mailto:azaminosco@almond.ocn.ne.jp)  
9月20日(日)まで お申し込みください。



いつくしみの特別聖年 公布の大勅書  
著者 教皇フランシスコ／発行 カトリック中央協議会／定価125円十税  
本小冊子は、今年の12月8日、無原罪の聖マリアの祭日から、2016年11月20日、王であるキリストの祭日までの約1年間に教皇フランシスコが「いつくしみの特別聖年」と定めることを公布された大勅書です。  
大勅書という、堅苦しい文書を想像なさるかもしれませんが、教皇フランシスコの話されるやさしい言葉に、毎週のように「カトリック新聞」で接している私たちには、この小冊子を読むことによって、同じようにやさしく語りかけてくださる教皇様の姿を感じます。  
最初に、教皇様は「イエス・キリストは御父のいつくしみのみ顔です。キリストの信仰の神秘は、ひと言でいえばこの表現に尽きる気がします」とおっしゃっています。この特別聖年を生きることに

よって、私たちが真剣に、神にまなごしを注ぎ、神のいつくしみをその言葉と行い、全人格で明らかに示されたイエス・キリストを生き、神のいつくしみのあかしを力強く、表していつくしみに願っておられることがひしひしと伝わってきます。  
教皇様が、大聖年の開幕を12月8日に定められたのは、第2バチカン公會議の閉幕50周年に当たる日だからです。第2バチカン公會議によって、教会は新しい歴史の段階に入りました。それは、福音宣教の新しい段階です。この福音宣教によって神のいつくしみを示し、あわれみと愛の心ですべての人に奉仕し、この務めを果たす大切さを公會議出席の教父たちは、聖霊が教えてくださったと感ずりました。  
この小冊子を、読んでみると、まるで祈り、黙想、観想に導かれているように感じます。この大聖年の間に、教皇様が計画なさっている聖年の扉を開けること、巡礼「主にささげる24時間」、「いつくしみの宣教師」の派遣などなどが豊かに書かれています。しかし、何よりも、この小冊子は、神のいつくしみの深い黙想書であると感じました。  
今号では、2014年の教区会計報告を掲載しました。これらのページからどんなことが読み取れるのか、各教会で話し合っていただけだと思えます。  
仙台教区報は、皆様からの投稿や情報提供によって成り立っています。各小教区や施設、地域の活動など積極的に情報をお寄せください。（岩井）

## 編集後記

舟山神父様の突然のご帰天、本当にびつくりしました。神様のみもとで永久の安らぎをお祈りいたします。

教会の子どもたちは、キャンプや合宿などで楽しい夏の思い出を胸に刻んで、これからも教会の中で活躍してくれることを期待し、大事に育てていきたいものです。

## カトリック仙台教区 2014年度決算報告 (2014.4.1.~2015.3.31.)

## ◇仙台教区 2014年度決算報告にあたって

教区会計 小松 史朗

毎年のことですが、今年も昨年度の「決算報告」をお知らせする運びとなりました。

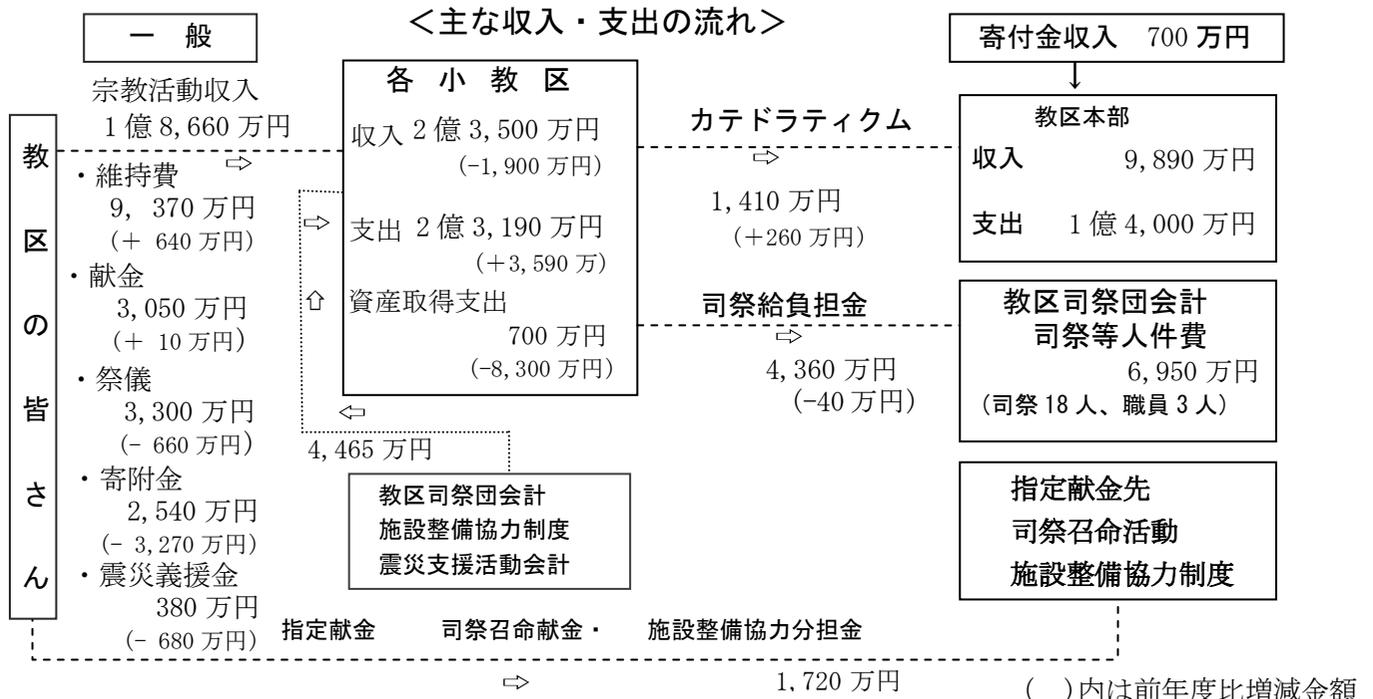
1000年に一度の震災から4年が過ぎました。この4年間、それぞれの立場で復興支援活動に微力ながらも邁進してきた仙台教区の、そして、カトリック教会の歩みは、被災した方々お一人おひとりとの寄り添い活動として成長し、活動を展開する町々では、無くてはならないものとして受け止められています。本当にありがたい事だと神さまに感謝をささげたいと思います。しかしながら、今までの走りにも疲れも感じているのも正直なところではないでしょうか。細くても永く活動が続くように、小教区の中でもう一度活動を見つめ直す時期を迎えているようです。

さらには、仙台教区の中では、宣教司牧の新しい形として、地区制が導入され、2年目を迎えています。地区としての課題が見えてきた中にも、地区としての喜びを感じ始めている信徒の方々からの声も聞こえています。正に福音が宣べ伝えられている実感です。うれしい限りであると同時に、これが当たり前のこととして教会内で受け留められ、教会の外にも証しされていけば、復興支援活動の壁も必ずや乗り越えられると祈っています。

教会の宗教活動は、外に向けて手を差し伸べる行為も、その活動の内であることを私たちはこの4年で知りました。その活動を経済の視点から見たものが、小教区の決算書であり教区の決算報告書です。信徒の皆様には、これまで同様、教会活動に対する経済的なご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年度当初から、いわき教会と野田町教会の会計がドミニコ会より教区に移管され 51 教会分の集計となりました。

各方面からの震災支援義援金は続いて送られていまして、今年度は主に聖堂の修繕費に支出されました。



## カトリック仙台教区 2014年度 決算概要

(2014.1.~2015.3.31.)

## ○ 小教区の収支

(単位 千円)

収入の部	2014年度	2013年度	支出の部	2014年度	2013年度
1. 宗教活動収入	186,692	226,102	1. 宗教活動支出	37,710	39,391
教会維持費	( 93,793)	( 87,336)	震災支援支出	( 4,004)	( 9,007)
献金収入	( 30,514)	( 30,385)	2. 指定献金支出	17,206	17,298
祭儀収入	( 33,079)	( 39,601)	3. 事務運営費	110,940	79,807
寄付金収入	( 25,466)	( 58,111)	光熱水費	( 22,547)	( 22,599)
震災義援金収入	( 3,839)	(10,669)	保守修繕費	( 56,560)	( 21,971)
2. 指定献金収入	17,206	17,298	4. 人件費	1,417	120
3. 補助金収入	0	0	司祭給与	( 1,417)	( 120)
4. 他部門繰入収入	21,129	900	5. 他部門繰入支出	62,817	59,377
5. その他の収入	10,350	10,084	カテドラルティクム支出	( 12,821)	( 11,586)
施設設備利用料	( 4,171)	( 3,853)	司祭給分担金	( 49,996)	( 47,790)
6. 財務収入	15,723	64,897	6. その他支出	1,821	325
前年度繰越支払資金	207,709	181,366	7. 財務支出	19,811	127,731
次年度繰越支払資金			次年度繰越支払資金	207,087	176,598
合 計	458,809	500,647	合 計	458,809	500,647

\*上記は青森県、岩手県、宮城県、福島県の小教区教会(ドミニコ会所属2教会を除く)の収支報告書を合計したものです。(次頁につづく)

\*2013年度と比較して増減額や特徴的な点をコメントします。

2014年は、4月から いわき教会、野田町教会の会計が ドミニコ会より移管されました。

#### 「収入の部」

「宗教活動収入」では4千万円減少しました。

- ①維持費は6百万円の増加となる。いわき教会、野田町教会分を勘案すると1百万円増加したことになります。
- ②献金収入は ほぼ横ばいですが2教会分を勘案すると2百万円減少となりました。
- ③祭儀収入は6百万円強の減少となりました。
- ④寄付金収入は32百万円強の減少となりました。
- ⑤震災義援金は 6百万円強の減少となりました。

「他部門繰入収入」は 教会施設等の修繕・改造に伴い、施設整備協力制度よりの借入金、援助金、分担金の返戻や他会計からの援助金と 震災義援金会計より震災支援活動への補助金です。

「財務収入」は 特定預金を取り崩したものです。

「前年度繰越支払資金」には、ドミニコ会より移管を受けた2教会分の 繰越支払資金 31,111千円が含まれています。

#### 「支出の部」

「宗教活動支出」では1百万円減少しました。①祭儀支出が3百万円増加し、②震災支援支出で約5百万円減少となりました。

「事務運営費」では31百万円程増加しました。保守修繕費で34百万円増加したのが主たるものです。

「財務支出」は固定資産取得支出が7百万円で、83百万円減少し、特定預金への繰入11百万円で23百万円程減少しました。

2011年3月の大震災から4年経過しました。まだまだ収支の各所に震災の影響が現れている決算でした。

教区本部に寄せられた「震災義援金」より今年度支出された小教区建物等修理費支出は

大船渡教会 920万円、釜石教会 150万円、宮古教会 766万円、石巻教会 388万円、  
カリタス釜石ベース（新設）2,000万円、となっております。

### ○教区本部会計の収支

(単位千円)

収入の部	2014年度	2013年度	支出の部	2014年度	2013年度
カテドリック収入	14,135	14,392	宗教活動支出	7,700	15,969
祭儀収入	770	1,290	宣教司牧費	( 4,630)	( 5,947)
寄付金収入	7,238	2,183	事務運営費	11,663	11,603
受取利息	3,578	3,854	人件費	12,557	12,893
その他の収入	3,874	3,980	司祭給与	( 5,700)	( 5,947)
他部門繰入金収入	31,719	18,680	他部門繰入金支出	50,700	3,700
経常収入合計	61,314	44,316	経常支出合計	82,620	44,165

次年度繰越支払資金 61,658千円

カテドリック収入は、ドミニコ会2教会 および 修道院分も含まれています。

#### 「収入の部」

- 1.「カテドリック収入」はほぼ前年度並みとなっております。
- 2.「寄付金収入」には 一般より遺贈が5百万円ありました。
- 3.「他部門繰入収入」は 本会計の赤字補てんの為 特別基金より5百万円と 広島土砂災害支援寄付の為3百万円、釜石ベース建設資金の一部に 2千万円受け入れてあります。

#### 「支出の部」

- 1.「宗教活動支出」は宣教司牧が、1百万円ほど減少し、寄付金も7百万円減少しています。広島土砂災害支援に 寄付金 3百万円を支出してあります。
- 2.「事務運営費支出」は前年度並みとなりました。中央協議会への負担金103万円が今年度から復活しております。